

比治山にあるフランス人兵士の墓地について、その歴史的経緯や子孫探し、2008年6月、日仏交流150周年の機に催された、子孫を広島に招待しての記念式典のことなどを知った筆者のフランス人の知人から、以下のようなメールが来た。私信ではあるが、フランスの現代史、特に第二次世界大戦末期にフランスが置かれていた実相の一部を知ることがかりになると思われるので、ここに紹介させていただきたい。文中に出てくるフランソワ・コエンディというの1900年に広島で亡くなった兵士の一人で、その墓が比治山のフランス人墓地にある。コエンディ兵士の子孫が見つかり、彼らは2008年6月、広島日仏協会に招待されて記念式典に出席した。またコエンディ氏の生まれ故郷であるクレモンフェラン近くのエダ町の戦没者記念碑脇に、広島日仏協会ほかの尽力により、2004年に記念銘板が設置された。

私たち夫婦は貴方が、祖国フランスから何千キロも離れた地、広島で亡くなった、不運なフランソワ・コエンディと彼の仲間たちのためになさっていることに対し、深い感銘を受けています。これらの兵士のことを記憶に留めようとするご努力が、広島に眠る兵士たちと彼らの子孫とを再会させることにつながっています。

実は私の父も祖国を遠く離れた地、北海のどこかの沿岸で亡くなっているだけに、感慨もひとしおです。若き衛生将校であった父は、クレルモンフェランの陸軍病院に勤務していましたが、レジスタンス運動のさなか、ドイツ人と戦って負傷した人々も病院に収容して治療しました。このことが密告されて、父は他の医師とともに強制連行され、ハンブルグ近

くのノイエンガンメの強制収容所に収容されました。終戦の一週間前に、この収容所に収容されていた者たちは、赤十字の船に乗せられ、当時中立国であったスウェーデンに運ばれていました。そのとき、イギリス軍の飛行機が船団を襲撃し、哀れな収容者たちに機銃掃射をあびせ、船を撃沈しました。何千人もの人がこうして命を断たれました。私の父もその撃沈された船の一隻に乗っていました。

私は父の霊を弔おうにも墓もありません。それ以来私はいまだに、心理学者が言うところの「心の整理」がついていません。

いつか機会があればエダに行って、コエンディ氏の記念碑に参拝したいと思っています。オーヴェルニュ地方にあるエダは、その火口湖で有名な町です。